



「四国三郎」吉野川

吉野川は、その源を高知県の瓶ヶ森（標高 1,896m）に発し、四国山地に沿って東に流れ大豊町敷岩において穴内川（あなないがわ）を合わせ北に向きを変えます。その後、四国山地を横断し、銅山川、祖谷川などを合わせ、徳島県三好市池田町付から徳島平野を東流し、阿波市岩津を経て第十堰地点に達し、旧吉野川（24.8km）を分派（1932 年）して紀伊水道に注いでいます。なお、吉野川の名は「ヨシが河原に多く繁る川」から来たとされています。

吉野川の池田上流では山間を流れ、大歩危・小歩危で溪谷を形作り、河床勾配も 1/400 程度と急峻であり、池田から岩津間では、河床勾配も 1/800 程度と緩くなっています。岩津から河口は、河床勾配も 1/1,100 程度と一段と緩流になっています。

流域は四国の河川としては唯一四国四県にまたがり、流域面積は 3,750 km²（徳島県 63%、香川県 1%、愛媛県 8%、高知県 28%）に及び、四国全域の約 20%を占めています。日開谷川最上流域の香川県東かがわ市「五名」（湊川流域を除く）・「多和」兼割（かねわり）の大窪寺付近、東俣谷川最上流域のさぬき市「多和」菅谷（すげだに）、曾江谷川最上流域の三木町「広野」・さぬき市「多和」（菅谷を除く）の降水は吉野川に流れ込みます。

幹線流路延長は 194km に達し、利根川の「坂東太郎」、筑後川の「筑紫次郎」と並んで「四国三郎」と呼ばれ、日本でも有数の大河川です。なお、川幅は荒川に次いで全国で 2 番目に大きく、川幅最長部は 2,380 m です。

吉野川総合開発事業の受益地においては、四国の人口の半数の 180 万人が暮らしています。また、農業用水を受ける農地は、徳島県、香川県及び愛媛県で合わせて約 40,000ha（徳島県の総面積は 41,470ha）にのびります。

さて、阿波藩代々の藩主にとって、最大の課題は吉野川の治水・利水でした。特に阿波は、国内での豪雨の他に上流の土佐藩領内で豪雨が降ると、阿波で雨が降らなくても

水害に見舞われる状況でした。このため阿波での豪雨に伴う水害を「御国水」、土佐藩内での豪雨に伴う水害を「阿呆水（土佐水）」と呼びました。初期の対策としては築堤の他水防竹林の植生があり、竹林の整備を重点的に行いました。一方、住民の水防対策としては「石囲い」や石垣による住居かさ上げなどで防衛策を取りました。

徳島城防衛のために第 4 代藩主・蜂須賀綱通が別宮川（現在の吉野川）を開削しました。しかし、その後の洪水で別宮川が本流となってしまう、吉野川本流（現在の旧吉野川）に水が流れなくなったため、水量調整と灌漑を目的として 1752 年に第十堰が完成しました。

吉野川の兩岸に大きな堤防が築かれたのは昭和初期の頃で、それ以前は経済的にも技術的にも洪水を防ぐような大堤防は築くことができませんでした。このため、毎年のように氾濫する吉野川が肥沃な土壌を運び、吉野川の下流域では藍の栽培が盛んに行われていました。（参考文献：国土交通省 HP）

いかがお過ごしですか

市場文化会館だより



8月7日(月)
ぱあわーあつぷ
工作体験教室が、
開催されました！